

とみけいニュース

発行 第70号

発行元
富山経済会
発行日
2022年11月16日
編集
広報委員会



創立40周年記念式典挨拶 会長 羽根 永泰

本日ここに、富山経済会創立40周年記念式典を開催するにあたり、会員並びに富山経済会、はぎの会の方々を含め、このように多数の方々に、ご多忙中ご臨席いただきまして、会員一同、心より感謝を申し上げる次第でございます。

また、式典開催にあたり講師であり、ご来賓の横田富山県副知事様、さらに藤井富山市市長様、富山国際大学村上様のご臨席を賜り、和やかに40周年記念式典が挙行できますことは誠に光栄であり、心から厚く御礼申し上げます。

さて、我々富山経済会は昭和57年10月に富山市内の企業経営者20名の有志が集まりまして、チャーターメンバーとして結成されました。それから今日までの40年の月日を経て、今日を迎えることができましたのは、ひとえに先輩会員の方々を始め、本日もご臨席いただきました皆様方の温かいご指導とご支援の賜物であると深く感謝申し上げます。

我々富山経済会は次のような目的をもって活動しております。

「ひとつ 会員同士の相互互助と自己啓発により、企業の安定と発展をはかり、持って地域社会に貢献することとする」このような理念のもとにこの40年活動を行ってまいりました。

またそれに伴い「会員同士の友情、親善、相互互助の絆を築き、経済人としての融和を図る」という目標を持っております。さらには地域社会に貢献できる団体であることも考え合わせながら活動している次第であります。

今日の40年の説目を迎え、我々富山経済会は今後ともその目的を促えながら、今後も少しでも会員企業の発展、さらには地域社会に貢献できる団体でありますよう、目的を持って活動を続けていければと考えております。どうか皆様方におかれましては、今後とも私たち富山経済会への変わらぬ温かい友情並びにご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますとともに、本日もご臨席いただきました皆様には今後のご健勝とご発展をご祈念申し上げて、簡単ではございますが私からの挨拶とさせていただきます。

創立40周年を振り返り 広報委員長 吉田 信三

今回 富山経済会が創立40周年を迎えるにあたり、羽根会長より早期に入会した会員より当会を振り返って話をしてほしいと依頼されましたので、私の40年余りを振り返って富山経済会で経験できたことをお話してみたいと思います。

私が入会したのは、昭和58年の4月に飴義夫さんと入会しました。私自身は、まだ20代後半と若く発足時の会員の年齢は、40～50代の方々を中心メンバーで組織されていたように記憶しています。ということで私は、まだ経営者としての経験も資質も持ち合わせていない状況で、当時私は営業や工事の積算、施工管理、LPガスに関する保安講習、そして資格の取得とやること覚えることが多く、富山インター近くに昭和57年8月に富山営業所を開設した翌年でもあり、最初の3～4年の出席率は半分から6割位でした。そのような中でも定例会、講演会、研修旅行に参加することで、新たな物事の認識、見聞を少しは広めることができましたと思います。

なかでも研修旅行や全体会議の懇親会の後、部屋でさらにお酒を飲み交わす座談会でお酒のせいもあり、ふだん聞けない体験談や、こんなことをこのように乗り越えたと言う仕事での苦労話、またその頃、なかなか会社を軌道に乗せるのに家族で時間を持てなかったが、今は奥様と家族とこのように時間を過ごし、また社員の方へ福利厚生のためにこのようなこともしていると話されているのを聞き私がこの先10年20年と経験するであろう事柄にヒントをもらっていたことを後から気づきました。

そのように思うようになってからは、時間を調整し当会への出席率も80%以上になり、幾度か皆勤出席もしました。

発足当時を調べてみると会員20名にて発足し1年猶予で50名近くに会員も増え、会は執行部と6つの委員会に会員が所属し、活発な運営がされていました。

創立1周年の記念事業として政治学者の藤原弘達氏を富山市公会堂に迎え、講演会を開催し、会場は満員で県内にも富山経済会の名も少しは知られた事業になりました。私もいくつかの委員長を経験し、平成15年度、平成24年度の会長をさせていただきました。

それらの経験が、会社経営はもちろん私が所属する業界団体、地域の商工業の団体、地域ボランティア団体等の運営に係わった時に、概ね支障なく務めることができたのは富山経済会での会の運営を経験できたことがベースにあると思っています。

今、現在の会員数は21名、コロナ感染の中、2名が休会している状況ですが、定例会に出席し食事をして会員と顔を会わす、話をする、メンバースピーチを聞く、その様に仕事からひと息つける時間を過ごし、ゴルフをはじめ各事業に参加することでリフレッシュしている自分があります。

近年、新しく入会された会員からも、メンバースピーチの中で、異業種ということもあり会社経営の工夫された話を聞き、知らなかった話にうなづくことや、すでに会社経営が安定期に入りさらに拡張、新規事業と目指しておられる会員の方、また会社の後継者、事業継承に取り組んでいる会員の方など、それぞれの経営状況に対応され活躍されている会員がこの当会におられます。

私が入会してから亡くなられた方々も含め、多くの経営者と富山経済会で知り合うことができ、自由で有意義な時間を過ごすことができたと思っています。これからも会員の皆さんと交流し経験し学びたいと思います。どうかよろしく申し上げます。



左：A'z style
代表 村内 恵美 氏
右：NPO 法人いいね
代表理事 大井陽司氏



2022年9月30日、創立40周年記念式典祝賀会が開催でき、とてもうれしく思います。今後ますます皆様のご活躍を心から祈っています。【事務局】

自分たちがやりたいことにチャレンジできる地域や人と人のつながり、自由に選択できるということが重要になってきます。

観光政策の課題として、目的地になるところをもっと整備して行かなければなりません。例えば、岩瀬では景観に気を付けてアーティストが集まって食事ができ、そのすばらしい状況で生活ができることが重要でワイナリーやアート、デザインとかの文化がキーになってきます。そして繋げるものが交通であり、目的地とつなげるモビリティが大事です。（モビリティ：移動や交通等幅広い意味）

結論として、今後地域を考えていく時に、ぜひ女性の力を活用して欲しいです。故郷がどんなもので、交流を増やして技術や知識を常にアップデートする。そうするとアイデアがたくさん集まってきます。

これからは女性に受け入れられるものが売れていくと言われていて、この多様性の中で、女性の意見を取り入れて地域の雰囲気を作っていくことが発展していく土壌として必要です。今後の方向性として文化観光が、若い人、よそ者、頑張る人を応援する地域の雰囲気を作ることが必要であり、文化が大事で若い人は特に SDGS とか循環型社会や持続可能性と今後の方向性として

- ・文化観光
- ・循環型社会や持続可能性
- ・価値の経済化
- ・企業マインド（チャレンジを受け入れる、成長戦力の柱となる）
- ・リアルのための DX（効率を上げる。リアルなコミュニケーションをしていく。定型的な業務はデジタルに任せる）



女性が来たいと思う地域を作ると、それぞれの分野で皆がウェルビーイングになることで風景が見えてきます。

女性の活躍を言いましたが、いろいろ伝えていくことが重要だと思い、伝えることへのフォーカスが富山県の課題だと思っています。



創立 40 周年記念式典

2022 年 9 月 30 日



永年会員表彰
左から
奥村さん
石田さん
杉本さん
羽根さん



上段
中央:藤井富山市長
右:永年会員表彰 4 名
下段
右:奥田副会長・羽根会長
中央:吉田信三氏
左:羽根会長

☆創立 40 周年記念講演会☆ 2022 年 9 月 30 日

講師：富山県副知事 横田 美香 氏
演題：富山県の強み・可能性と課題

富山の発展のために新田知事といろいろな仕事をさせていただいていて課題もあるなと思っています。本当に潜在力のある県でもっと力を入れたい良くなっていくのではと感じています。

まずは自己紹介ですが、私は広島県の呉市の出身で瀬戸内海に面した風光明媚な海軍の街と呼ばれていて、海と山が近いです。けれども富山とは全然違います。富山県は、水の国だとすごく感じています。広島には粉文化がありまして、お好み焼きとかうどんがよく食卓に出ます。

富山は水が育み米や野菜がおいしく自然が豊かですが、自然の驚異と戦ってきた県だとすごく思います。その中で社会資本整備が進んでいることが感じられ、最たるものは常願寺川の立山砂防の堰堤で 120 年以上も前から、全部数えると 300 数十以上もあり、先人たちの努力によって富山県の生活が守られている、と見学した時に本当に感動しました。また農業に関係している魚津の東山円筒分水槽ですが、農地に水を行きわたられるために、遠くから水を引いて川の下にトンネルを通して円水筒として吹き上がらせて、あらゆる地域に行き渡せることは、とてもすばらしいです。他にも射水平野の西武排水機構や常西合水口用水については日本最古の大規模合口用水として令和 2 年に本県初の世界かんがい施設遺産に認定登録されました。常願寺川の左岸を並走し農地を潤し、上下水道や工業用水のほか水力発電に活用され地域の暮らしを支える大事な農業用水です。

文化や観光の面ですが、3 年ぶりに開かれた八尾のおわらは 3 0 0 年前から工夫を重ね胡弓も取り入れて進化してきました。黒部のトロッコ等、鉄道関係についてもとても魅力的な富山県です。（しかし人口については 1 万人ずつ減っているのも課題です。）

☆海外の方がよいと思う場所☆

1 位 キラリ 2 位 環水公園 3 位 県立美術館 4 位 八尾の街並み

他にはない魅力で地域の発展のためにはみんなが同じ方向を向いて、発展のためにいろいろな取り組みをしていくことが大切です。25 年先を見ると本当に地域の課題として生産人口の減少で、バブル期から 35%減っています。

今、富山県ではウェルビーイング（真の幸せ）をうち出しています。ウェルビーイングの向上を図ることが、経済成長の目的であり手段でもあります。

☆真の幸せ（ウェルビーイング）戦力☆（富山から若い女性が流出している問題）

- ・人材集積のため多様な人材が生き生きと暮らせる環境づくり
- ・若い女性のウェルビーイング向上のため女性を取り巻く環境を改善

